会 議 録

会議名称	令和6年度 第1回総合教育会議		
開催日時	令和7年3月26日(水) 9:00 ~ 10:00	開催場所	別館 2階 会議室
出席者	1. 武末市長 2. 木下教育長、池田委員、渡辺委員、小森委員、西委員 3. 小原副市長、桐谷総務部長、石橋教育部長、小川行政経営課長、結城教育総務課長、小川学校教育課長、高瀬教育指導室長、松本指導主事、吉岡文化振興課長、天野社会教育課長、松野スポーツ課長、高木企画担当係長、藤野教務担当係長、中俣主任主事、寺岡主任主事、森河主事		
傍聴者	0名		
配布資料	・学力向上に関する取組（現状・課題・成果等）		
公開区分	☒ 開示 ・ ☐ 一部開示 ・ ☐ 非開示 （理由：情報公開条例第9条第1項第 号に該当）		

議題及び報告の内容

1. 市長あいさつ

総合教育会議は、那珂川市の教育の在り方を考えるものである。小・中学校、幼稚園等の教育環境を更に充実させるため、まずはこの場で、私たちの教育に関する理解度を深めることが重要である。

2. 協議事項、意見交換

(1) 学力向上に関する取組（現状・課題・成果等）

市長

資料について、説明をお願いします。

事務局

配布資料 本市の学力の状況と取組を説明。

教育委員

Nスペ講座について、参加した子どもが丁寧に説明してもらえてとても楽しいと言っていた。このような場がきっかけとなり学力向上につながっていけばよいと考える。

教育委員

実際に授業に参加したが、丁寧さがとてもよかった。安心して話を聞く、学ぶことが出来ている。

市長

Nスペについて、これからの中学校生活が充実するという点で小学6年生を対象としたのではと推測するが、小学6年生を対象にした理由を教えてください。

事務局

市長が推測した内容が狙いとしてある。中学校へ進学した際の環境の変化で、場になじむことが

出来ない子どもたちがいるという現状がある。それに対し、Nスペ講座は進学先の中学校で実施すること、他の小学校から進学してくる子どもたちと一緒に学ぶことで、つながりができる。

また、数学という積み上がっていく学力の科目に限定し、重点的に行っている。

市長

今のような考え方であれば、小学6年生を対象とすることを当分の間継続することで成果が出るという理解で良いか。

事務局

その通り。

教育委員

貴重なデータを基に、資料を示していただき、感謝する。

学力を向上させたいという思いを、教育委員会と現場が粘り強くやりぬいた結果であり、予算の面でも理解をいただいた結果であると考ええる。

かつては、家庭学習がなかなか定着しなかったという状況であったが、Nスペ講座により学びの姿勢作りにも繋がったのだと考える。

市長

那珂川スタンダードによる授業改善について、学校現場の方向性が整ったことも一体的な取組に繋がったと考えるがどうか。

事務局

そのとおり。

資料にある通り、現場を巻き込んだ熟議と作成を行ったことが大きく寄与した。

どのような学習の実態があるのか、どのような指導を行っていくべきかなどを現場と協議を重ねながら作成したことが、那珂川スタンダードの浸透につながったのではないかと考える。

また、それ以外にも学習規律についても作成しており、このことも今の学力向上につながった取組であると考ええる。

市長

那珂川市では、他市よりも早くICTを導入したことが、現場の教師の興味や子どもたちの興味を惹き、学力向上につながったのではないかとと思うが、どうか。

事務局

仰るとおり。幸いにも他市に先駆けて導入できたことが良かった。今は、子どもたちにとってより効果のある使い方はどのようなものがあるかということ授業の中で取り組んでいる。ICTを使っている実感のある子どもの方が、正答率が高いことがデータにも表れている。闇雲に使うのではなく、学習効果につながる使い方が出来つつある。

市長

ICTについて、教師よりも子ども達の方が慣れる速度が速いのではないかとと思うが、どうか。

事務局

導入の仕方として、教師に先に活用することを促し、その後に子どもたちに導入した。この手順を踏んだことが、相乗効果を生んだのではないかと考える。

教育委員

那珂川スタンダードについて、問題解決型の学習であるように思う。これを徹底するために、今の国語や算数だけでなく、図工や音楽といったものも問題解決型の学習として構成しているのか。それとも国語や算数といった幾つかの教科に絞った形での取り組みを考えているのか。

事務局

現時点では、国語、算数、理科、外国語が中心となっている。ただ、那珂川スタンダードの理念の一つに「教えて、考えさせる」といった理論を取り入れている。教えるべきところは教える、考えさせるところは考えさせる取組を行っており、さらにそこにICTを導入することで時間を有効に生み出し、主体的な学びの一つである、振り返りの時間を確保できている。

教育委員

振り返りの時間を確保することは難しいと理解しているが、ICTを活用することでその時間を確保できているということで効果が発揮されている。

ぜひ、音楽や図工といった科目にも拡げてもらいたい。

教育委員

那珂川市は他市に先駆けて教師1人1台タブレットの配付がなされた。このことは管内にも話が広がり、教師も生徒児童に反映させたいという意欲向上につながったのではないかと考える。使いこなしたいという教師の努力と教育委員会のサポートがあり、よりよい関係づくりにつながったと考える。

教育委員

1つ懸念がある。学力の充実を感じる。ただ、家庭環境の変化により、生活習慣というものを改めて考え直さないといけないのではないかと考える。

教育委員

那珂川市の広報誌について、学校紹介や学校教育、市の取組など様々な情報が発信されている。その中で、家庭教育の重要性について問いかけるような記事を書けることができればよいと考える。

市長

令和7年度からの取組として、教育現場の処遇改善を実施することとしている。

具体的な事業について担当より説明をお願いする。

事務局

令和7年度から導入する事業として、①自動採点システムの導入②統合型システムの導入③生成AIの導入を予定している。自動採点システムにより教師の公務負担軽減及び、統合型システムにより公務や成績管理等が一元的に出来るようになる。また、保護者からの欠席連絡も専用のアプリを通じて行うことが出来る。生成AIについては、例えば生徒指導について生成AIを使って注意点等を把握し、それをもとに教師が協議をしながら指導をすることが出来る。公務での文書作成も生成AIを活用することで教師の公務時間短縮ができると考える。

市長

教師にゆとりある授業を行ってもらうには、こうした間接的な支援が必要であると教育委員会より提案があったため、予算化したものである。

3. 教育長あいさつ

教育長

本市の子どもたちの学力は数年前と比較して着実に向上し、ICT教育、英語教育を行ってきたことについては先進地域として評価されている。これについては市の施策と同時に、現場の粘り強い取組み、その目指す方向性を的確に示し支えている教育指導室の役割が非常に大きいと考える。また、教育委員会としても、学校現場や保護者に寄り添った取組みにより現場との距離がとて近く、信頼関係を築けている。このような様々な取組の相乗効果で本市の学力が向上している。今後も生成AIを活用した事業等と同時に継続して取組むためにも、支援をお願いしたい。

4. その他

市長

事務局から意見はあるか。

事務局

なし。

市長

以上、令和6年度総合教育会議を終了する。

以上